

茶道部 「冬の茶会」に向けて お稽古風景

上野の東京国立博物館の敷地奥にある北側の庭園には、5棟の茶室があります。その中の一つ「九条館」にて、本校生徒が薄茶点前の席を一席、設けることになりました。

九条館は、もともと京都御所内の九条邸にあった建物であり、東京赤坂の九条邸を経て、1934年に現在の場所に移築されたそうです。

文化祭で披露した「風炉点前」は10月で終わりました。11月は、炉開き（季節が冬となり、そのシーズン初めて炉に火を入れて使い始めること）ですが、10月28日（火）に、少し早めの炉開きをいたしました。現在、部員一同、令和8年1月の「冬の茶会」に向けて、「炉薄茶点前」のお稽古に励んでいます。誰がどの役目になっても出来るようにと、亭主（点前をする）、半東（お客様を迎える人、点前の準備を手伝う）運び（お菓子や薄茶をお客様に出したり、飲み終わった茶碗を下げる）の三役を交代で行いお稽古をしています。半東は、長い口上を覚え、亭主の点前の進行に合わせて、上手に間を取りながら口上を述べるので、気を遣う役目です。

「本番まで残り2か月程ありますが、口上やお点前は覚えることができているので、残りの2か月のお稽古で細かいところを完璧に仕上げたい

と思います。」と部員一同、心を引き締めて頑張っております。



「遠山無限碧層々」 えんざんむげんへきそうそう
「紅葉滿山川」 こうようやまかわにみつ

